

自由民主党総裁選

いうまでもなく、政権党自由民主党の総裁即総理大臣であり、今後の日本の在り方、行く末を最終決定するものである。

なりたい、と言う者が何人かいたが、順当にいけば安倍晋三総理になるだろう。2位以下は、はるかかなたで姿は見えない。なぜか？

たとえば野田聖子。推薦人の20人の国会議員が集められなかった。・・・これは、ほかに立候補者がいなくてもダメだ。中国の南シナ海進出を、あろうことか、「日本へのなんのメッセージ性もない」と切り捨て、これに対しケント・ギルバートなど、口を極めて罵っている。ビットコイン絡みで金融庁に圧力をかけ、問題のある事業者が行政処分を免れたのではないか、という疑惑、さらにはパートナーのうさん臭さもあって、出馬は早くから無理な状態であった。さらには、中国とIT関連で、共同歩調をとろうとするなど、国を売るものである。目先の利益に惑わされたか。推薦人には、だれもなりたがらないだろう。

岸田元外務相は、自ら禅譲を期待していたらしいが、要所々々でほぼ決定的なミスを冒し、あまりの期待はずれで、これも沈没。唯一安倍さん指示にまわったことが得点になった。

前回の候補者の中で、唯一、名前もあがらなかったのが石原伸晃。まあ、おとなしくしておきなさい。小泉進次郎については、芸人の人気投票のようなもので、一見正論をのべているようであるが、行政に携わったことのない若僧が言いたいことを言えば、マスメディアは取り上げる。こいつら、本当に「日本」のことを考えているのか、それとも自社の繁栄をのみ願っているのか。ましてや総理云々ならば噴飯ものである。おとといおいで。サミットに出席すれば、洩もひっかけられないだろう、**Who are you!** で終わり。

で、度重なる閣僚への誘いに乗らず、総理まっしぐらだったのが石破茂。前回、地方自民党票では勝っておきながら、国会議員の票で逆転された悔しさを晴らしたい。・・・雌伏といっても、安倍さんの安保法制と憲法9条改正に対しての意見をのべただけである。憲法改正は、いかにも正論、原理原則に則っているが、政治は、機械がするものではなく、人間がするものである。反対の意見のものを説得してから言わないと、説得力がない。・・・そんなもん、安倍さんは先刻承知である。

いくつもの石破の欠陥を挙げる人が多い。

たとえば、自民党が下野したとき、歯を食いしばって自民党復権に努力した

連中をあざ笑うかのように、そのときもっとも力があると思われた議員にすり寄り、(よく似た話が小池都知事。そっくりで、一時連携をとっていたのもわかりやすい。) ついで立候補するに利用しやすい派閥を 2 つも 3 つも渡り歩き、最終的に自民党に出戻り。「派閥をなくすぞ」と声高に叫びながら、結局は派閥準備会から自分の派閥を作る。その矛盾には気が付かないのやろね。

麻生大臣が、「派閥を解消して無派閥の会を作って石破派に変えたんでしょ。言ってることとやってることが違うのはあんたじゃないか。」

石破は、自虐史観の持ち主である、というのは、周知のことである。だから、韓国・朝鮮には未来永劫謝罪するべきだ、という。侵略もそうであるが、村山トン吉レベルの理解しかしていない。安倍さんは、いつまで謝らなければならない！と語った。

たとえば慰安婦の話でも、朝鮮人の強制のことばかりを言うが、実際に多かったのは日本人女性であり、しかも「強制ではなかった」ことを忘れている。朝鮮(韓国)の新聞と産経新聞を読み比べると、微妙にずれがあるという。細かく述べる気はないが、地方の自民党員の理解力が問われるところである。

石破は「正直・公正」を謳うが、獣医学部新設に際し、100万円の政治献金をうけて、新設の条件をよりきびしく、ほとんど不可能にする「石破 4 条件」を作成した。清和会で、誰かが「石破、不正直・不公正・100万円」とちゃかしたところ、あまりの的確さにだれも笑わなかったという。モリカケでも、安倍総理の無関係がわかっているのに、安倍政権を批判していたという。

「正直で公正、謙虚な政治」をスローガンに、「官邸の信頼回復」や「国会運営の改善」・・・そんなもん、安倍さんがもうやっている。

「日本の設計図を書き換える」とぶちあげたが、内容は、「総理になってから・・・」あんた、舐めとんか！

石破が嫌われているグループがある。ひとつは、**拉致被害者家族**。なんにもしなかった。なんにもしなかったのは、いくらでもいるが、たとえば旧拉致議連は中山正輝が怪しげな対北宥和路線に走って空中分解した。(それでも勲章はもらったが、さすがに忸怩たるものがあつたらしい。) すご新たに拉致議連ができ、石破が会長をやったが、結局経済制裁などなにもせず、入閣した。

しかも、その家族会の邪魔ばかりする。たとえば経済制裁をおこなえばミサイルを撃ち込まれる。対ミサイルができるまで静かにしておくべきだ。・・・バカという。それでは、野中務や河野洋平と同じことで、北がミサイルをうつぞ、といえは上質のコメをうやうやしくさしだす。北からみれば、脅しが効く

とってしまう。そういうときには、ミサイルをうてば、米国からの攻撃で国が亡ぶぞ、と言え。日本が、でないのがくやしいが。……それでも、今経済制裁を行っているが、ミサイルは飛んでこない。

もうひとつは、**自衛隊**。いずれも、かつて自分がその長にあった役職に関してである。自衛隊に関しては、そろって毛嫌いしている。自衛隊最高幹部と話すとき、普段、他人の悪口をめったに言わないひとが、「……どうしても許せないのは石破ただひとりだ」直接には、巡洋艦「あたご」が、漁船と衝突し、漁船の乗組員 2 人が沈没した漁船で亡くなったことである。当事者がいないから詳細については不明であるが、一般の船同士の間での取り決めごとがあるはずである。ところが、マスメディアに踊らされ、一方的に自衛艦が悪いと決めつけて、船長は更迭、海上幕僚長も更迭。裁判では、2 審とも漁船側の敗訴になった。マスメディアに味方し、身内の自衛官を守らなかった。……上層部が取り消しを懇願したが、なにもしなかった。これが決定的で、普段悪口を言ったり、罵ることがない人が、「こいつだけは総理大臣にははいけない」と明言する。

非核三原則は、当時ならともかく、周辺に核保有国ばかりの現在、なんらかのリアクションをおこすべきだろう。(ここには、日本も核武装を考慮する必要がでてくるかもしれない。) このことは、地方創生大臣のときにもそうで、何もしなかった。……いずれも、責任が亡くなった途端に、外野からいちいち口を出す。薄汚い。

「反安倍」ならマスメディアが持て囃す。化けの皮がはがれたら、小池のように、洩もひっかけない。そういう人材は、(人材難と言いながら) いくらでもでてくる。次の選挙に有利だからである。

吉田博美議員は、青木幹雄からいわれると、断れない。なぜかというと、世話になった人の言うことを聞かなかつたら、そういう人間性の持ち主である、と終生思われるからである。安倍さんと仲がいいから、安倍さんには仁義を切っているし、安倍さんも理解を示している。青木幹雄もだらしのない男で、あれほど石破を嫌っていたくせに、自分の息子の当選がかかっているから、石破にすり寄る。……安倍さんは、そういう人間関係を大切にしてきた。

石破が、「正直、公正、石破茂」といったら、その場にいた全員が同時に「よく言うよ！」

話は変わるが、「日本を貶めた政治家 10 人」のなかで、もっとも評判の悪いのが河野洋平のいわゆる「河野談話」である。それ以前に加藤紘一がよく似た、証拠もない談話を発表している。加藤は、思慮が足りない、つまりバカ。(いざ

れも宮澤喜一が総理の時。学はあってもバカはバカ参照のこと) 1999年小渕首相のとき、「君が次に総理になるから今回は立候補しないでくれ」と頼んだらしい。ところが、それをより鮮明にしようと立候補してしまった。小渕は激怒し、加藤派を徹底的に冷遇し、加藤は顔色を失ったという。その後も、誰に唆されたか、森首相の時、森降ろしを画策し、いわゆる加藤の乱でつぶされてしまった。以後表にでることなく、スキャンダルまで表面化し、離党復党をくりかえし、失意の内に亡くなった。自業自得ではあるが。

すでに書いたが、吉田博美さんは、安倍さんと仲が良く、話が合う中であつた。ところが、吉田は、安倍さんに投票するつもりでいたが、世話になった青木のひとことで、竹下(亘)派の参議院議員は石破に投票することになった。

朝日は、「安倍一強はよくない」というが、朝日にとってそうだろうけど、現今の核に囲まれた状況で、いつミサイルが飛んでくるかもしれないのに、小田原評定をしろというのか。

安倍さんは、「石破を叩きのめす」「次はないな」と珍しく強気になっている。次がないのは、未来永劫、ないということである。地方の自民黨員も、本気で考えないと、地方創生も何もなくなる。

いまそこにある国家の危機に、石破ごとき「逃亡」の常習犯に投票することは、すなわち危機感をもっていないということで、「地方の時代」もなくなってしまう。

石破は、負けるとわかっている太平洋戦争(大東亜戦争のことらしい)をなぜやめなかったか、と言う。負けるとわかっていたなら、抵抗もせず、降伏せよ、ということか。それなら「奴隷」にされるだけである。マッカーサーがみじくも陳述したように、あれは自衛戦争だった。ルーズベルトの人種偏見、共産主義者の画策で、戦争をしないですむように日本がわは、あらゆる譲歩をしたが、共産主義者の手によるハルノートですべてが灰燼に帰した。……これしきのことがわからないのも珍しい。

2012年の総裁選のときの両者の意見を書いてみる。比較がしやすいからである。

安倍晋三

昨年3月に発生した東日本大震災は、今を生きるわたしたちにとって忘れえぬ出来事となりました。いまだに34万人の人たちが困難な生活を強いられています。いまずぐ、「オールジャパン」で力強い本格的な復興を、政治のリーダーシップで進めていかなければなりません。待ったなしであります。

また、この大震災を通じて私たちは、わたしたちにとって大切なものは何か、守るべきものは何かを学ぶことができました。それは大切な家族であり、いとおいふるさとであり、かけがえのない日本であります。

いま、日本の海が、領土が脅かされようとしています。断固として守るという決意を示していかなければなりません。

長引くデフレ、円高によって経済は低迷し、若い人たちは将来に夢や希望を見出せないでいます。いまこそ、デフレから脱却し、経済を力強い成長軌道に乗せていく必要があります。

「日本は黄昏を迎えている」というひとがいますが、そんなことはありません。政治のリーダーシップによって何をするか、そこにかかっています。正しい決断によって、実行力によって日本は必ず、新しい朝をむかえることができます。

石破茂

私は26年追貝議員をやってきました。いろんなご批判をいただきます。そのことは、私自身、よく承知を致しております。にもかかわらず、なぜ今なのか、なぜわたしなのか、ということでもあります。

昨年の3月11日の大震災、大津波、原発事故、危機管理がとわれています。防災もそう、エネルギーもそうです。地方もそうです。財政もそうです。安全保障も社会保障も、すべての危機管理が問われている。

それが、東日本大震災原発事故であったとおもっています。私は危機管理の仕事を長くやってまいりました。ありとあらゆることを想定する。想定外ということを口にしてはならない。

法律の面においても、あるいはどのような装備を持つかについても、どのような運用をするのかについても、これはすべてに通じている問題であります。社会保障も財政もそう、このまま何とかなるだろう、それはもはや通用いたしません。その危機管理を私はやってまいります。

青木香さんに評価させると、雲泥の差がある。

安倍のスピーチがリーダー（指導者）のものであるのに対し、石破のそれは、マネージャー（管理者）のスピーチだ。

まず安倍は、「私」という言葉を一度も使っていない。終始「私たち」と言っている。これは、国民と自身を一体化させたリーダーの主語だ。加えて、「日本」が3回でてきている。

一方の石破は、冒頭から長めに「私のこと」を語っている。そして「日本」がでてこない。

そもそもリーダーとは、ビジョン（展望）と戦略を語る存在でなければならない。「ビジョン」とは、未来はどうなるのかであり、「戦略」とは、そのために、何をするか、とくに何を優先するかである。安倍は、安全保障と経済の回復を語っている。国防力と経済力である。

石破は、総理になるために「危機管理をやります」で、これはすべての問題にからんでくるもので、わざわざ語るものでもない。単に饒舌なだけでメッセージ力が弱い。

ここで有本は東京都知事と比べ、その相似に触れている。どちらも、そのとき強者にくっついていき、うろうろしている。自民党が下野して一番つらい時に逃げ出している。なにもしない、できない、無能で口説の徒にすぎないことを共通点と指摘する。

国会議員にソッポを向かれるのは、共通していて、当然だろう。